



学校要覧

令和7年度

愛媛大学教育学部附属小学校

愛媛大学教育学部附属小学校校歌

梶原 光男 作詞
平井 康三郎 作曲

♩ = 112 明るく
mf



1. あ さか ぜ か お る や ま な み を
2. お おし く そ び ゆ し ろ の よ う に

たのしくはずんで



あ おい で きょうも は つ ら つ と ひ と み あ か る く
な か よ し こ よ し が つ ち り と あ す の に ほ ん を



ま なぶ に わ わ れ ら の ふ ぞ く し ょ う が つ こ う
き ずく に わ わ れ ら の ふ ぞ く し ょ う が つ こ う

おおらかに *f*



き ぼ う の ま ど が ひ に ひ か る
り そ う の は な が さ き に お う

1 朝風かおる 山脈を
仰いで今日も はつらつと
ひとみあかるく 学^にぶ学^が園
われらの附属小学校
希望の窓が 陽にひかる

2 おおしくそびゆ 城のように
仲よしこよし がっちりと
あすの日本を 築^にく学^が園
われらの附属小学校
理想の花が さきにおう

校 訓

な か よ く
す す ん で
や り ぬ く

校 章



(校旗)

1960（昭和35）年10月制定。
調和と発展を希求して意匠された。

I 学校の概要

1 学校設置概要

創 立 1883（明治16）年10月18日（本年度 創立142年）
所在地 〒790-0855 愛媛県松山市持田町1丁目5番22号
TEL 089-913-7861 FAX 089-913-7862
教職員 校長（1） 副校長（1） 主幹教諭（1） 教諭（23） 養護教諭（1） 栄養教諭（1）
講師（7） 事務職員（3） 教育支援員（4）
児 童 令和7年5月1日現在 564人（男子281人 女子283人：18学級）
校 地 27,166㎡（校舎：5,797.69㎡ 体育館：916.28㎡ 運動場：4,000㎡）



三つの泉 製作：乗松 巖
題字：光田 比公

知情意を根源とする「親の愛、先生の愛、友達への愛」を表している。

像の下にあるコンパスは「正しく考える（知）」、ハープは「美しいものを感じる豊かな心（情）」、ハンマーは「どんなことにもくじけずがんばる力強い意志（意）」を表し、二人の子どもを支える三つの輪が、三つの愛をかたどったものである。

2 本校の使命

愛媛大学教育学部附属小学校規程 第2条

愛媛大学教育学部附属小学校は、学校教育法の規定に基づき、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すとともに、次の各号に掲げる任務を果たすことを目的とする。

- (1) 教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行うこと。
- (2) 教育学部における児童の教育に関する研究に協力し、及び学部計画にしたがい学生の教育実習を実施すること。

○ 義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを実施する

本校は、義務教育の目的（教育基本法第5条第2項）及び小学校における教育の目的（学校教育法第29条）を実現するために必要な程度において、義務教育として行われる普通教育の目標（学校教育法第21条）を達成する教育を行う。

○ 教育研究を行う

本校は、教育研究に関する任務を果たすために、愛媛大学教育学部、他附属校園及び各教育機関と連携・協力しながら、教育の理論及び実際に関する臨床的・実践的な研究と実証を行うとともに、愛媛教育研究大会を開催し、研究内容を公表する。また、必要に応じて研究成果を集約し、教育研究図書を刊行したり発表したりする。

○ 教育実習を実施する

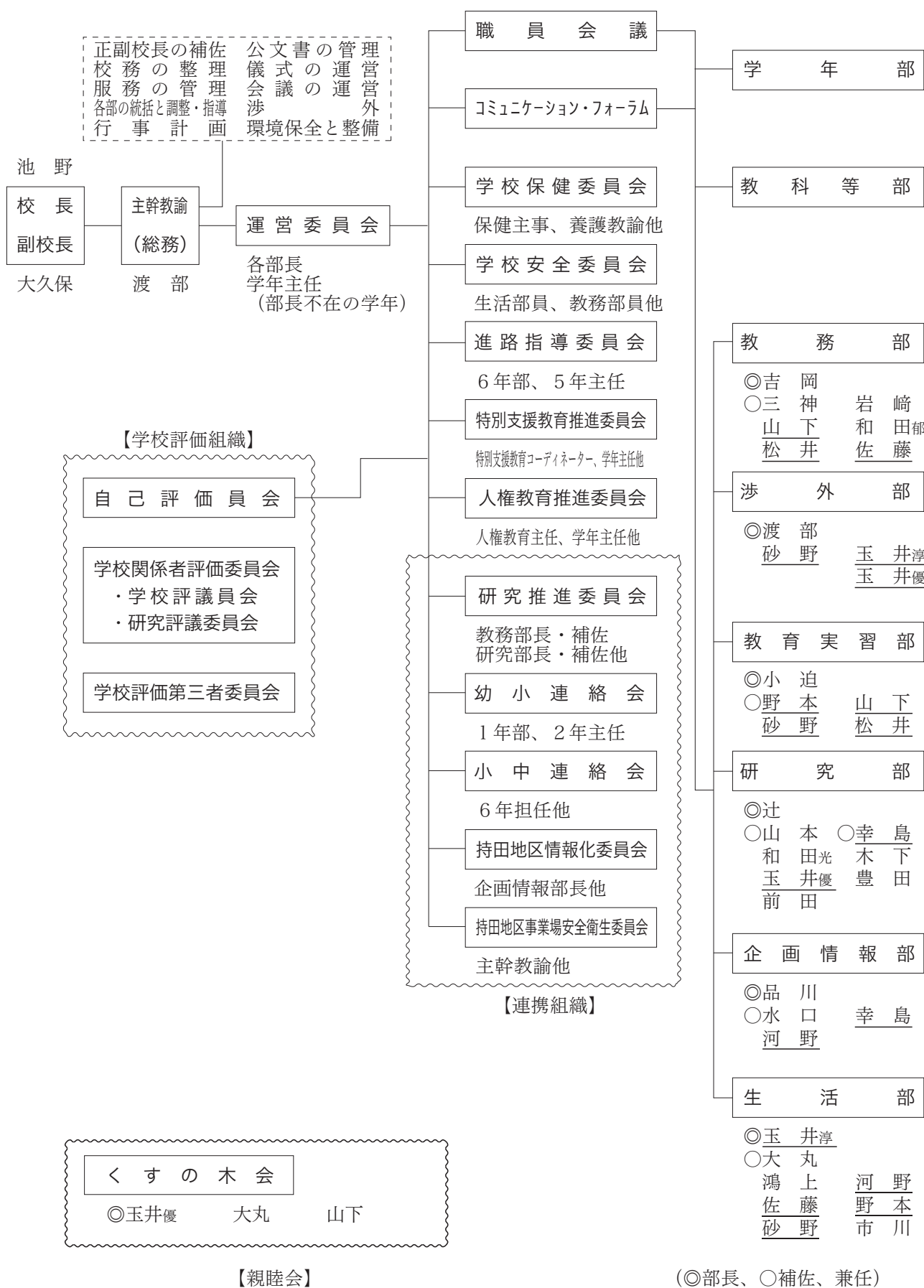
本校は、教員養成を目的とする教育学部の附属学校としての任務を果たすために、教育実習生に対して、教育の現場における学習指導や生徒指導、サービス一般に関する実践的な指導を行い、教職教養を深めるとともに実践力を育成し、教育者としての資質の向上を図る。

3 教職員一覧

(令和7年5月1日現在)

職 名	氏 名	担任	教科等	主 任 等	校 務 分 掌 等
校 長	池野 修				
副校長	大久保美香子				
主幹教諭	渡部 千春		算数・理科		渉外部長 総務
教 諭	鴻上 亜希	1 月	図画工作	1 年 特別支援教育コーディネーター	生活部
教 諭	前田 佑芽	1 花	生活	生活 幼小連携教育	研究部
教 諭	山本 大介	1 星	算数	統計教育	研究部補佐
教 諭	和田 光平	2 月	算数	算数	研究部
教 諭	岩崎 茜	2 花	国語	2 年 国語	教務部
教 諭	豊田 高広	2 星	生活	視聴覚教育	研究部
教 諭	佐藤 福起	3 月	体育	交通安全	教務部 生活部
教 諭	辻 健一	3 花	道德	道德 研修	研究部長
教 諭	木下理重子	3 星	理科	3 年 環境教育 司書教諭	研究部
教 諭	吉岡 舞	4 月	総合	教務 総合的な学習の時間 学力向上推進	教務部長
教 諭	大丸 裕基	4 花	体育	4 年 体育	生活部補佐
教 諭	河野 幹大	4 星	特別活動	特別活動	生活部 企画情報部
教 諭	山下 拓也	5 月	社会	社会	教務部 教育実習部
教 諭	玉井 淳博	5 花	算数	生徒指導主事 学校安全	生活部長 渉外部
教 諭	三神 琴美	5 星	国語	5 年 書写	教務部補佐
教 諭	和田 郁	6 月	外国語	6 年 外国語 国際理解教育 進路指導主事 小中連携教育	教務部
教 諭	幸島 恭輔	6 花	国語	学校図書館	研究部補佐 企画情報部
教 諭	品川 崇	6 星	社会	情報教育	企画情報部長
教 諭	水口 達也	理専	理科	理科	企画情報部補佐
教 諭	小迫 朝子	図専	図画工作	図画工作	教育実習部長
教 諭	玉井 優子	音専	音楽	福祉教育	研究部 渉外部
教 諭	松井 見磨	音専	音楽	音楽	教務部 教育実習部
教 諭	野本 星来	家専	家庭	家庭 人権・同和教育	教育実習部補佐 生活部
養護教諭	砂野 美和	養護		保健主事	生活部 教育実習部 渉外部
栄養教諭	市川 祥子	栄養		学校給食	生活部
講 師	清水 澄子	1・2年	国語		
講 師	和田 真美	3～6年	書写		
講 師	砂田 孝夫	3・4年	算数・理科		
講 師	葛原由美子	3 年	算数		
講 師	今村 幹江	4・5年	算数・理科		
講 師	川口ローラ	A L T	外国語		
講 師	高橋 寧々	S C			
教育支援員	崎山 美穂	学校図書館司書			
教育支援員	柚山由紀野	養護補佐			
教育支援員	道上喜美子				
教育支援員	三好 京子				
附 属 学 校 園 事 務 課				校 医	
職 名	氏 名	備 考		内 科	中 眞一
課 長	鈴木雄一郎	小学校事務		内 科	吉松 誠
副課長	刈谷 彰司			歯 科	篠崎正文・輝子
事務補佐員	日野さゆり			眼 科	眞田真理子
				耳鼻科	末光 清貞
				薬剤師	田中 智美

4 学校運営の組織



(◎学年主任)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
月 組	◎鴻 上	和 田光	佐 藤	吉 岡	山 下	◎和 田郁
花 組	前 田	◎岩 崎	辻	◎大 丸	玉 井淳	幸 島
星 組	山 本	豊 田	◎木 下	河 野	◎三 神	品 川
所属専科	砂野・市川	小 迫	野 本 渡 部	玉 井優	水 口	松 井

(主任等)

国 語	岩 崎	家 庭	野 本	人権・同和教育	野 本	学校給食	市 川
書 写	三 神	体 育	大 丸	統計教育	山 本	幼小連携教育	前 田
社 会	山 下	道 徳	辻	国際理解教育	和 田郁	養 護	砂 野
算 数	和 田光	特別活動	河 野	情報教育	品 川	進路指導	和 田郁
理 科	水 口	総合的な学習の時間	吉 岡	環境教育	木 下	学校保健	砂 野
生 活	前 田	外 国 語	和 田郁	福祉教育	玉 井優	司書教諭	木 下
音 楽	松 井	視聴覚教育	豊 田	学校安全	玉 井淳	特別支援教育コーディネーター	鴻 上
図画工作	小 迫	学校図書館	幸 島	交通安全	佐 藤	小中連携教育	和 田郁

教育課程と年間指導計画の編成及び教職員研修計画（研究部と連携）、時間割作成と授業時数確保のための調整、学習計画（代教計画・引率計画を含む）、通信簿「あゆみ」（生活部・研究部との連携）、儀式等行事計画、消防及び防災計画・避難訓練、学校評価（自己評価等）、教育調査、教科書関係事務、備品・補助教材・テスト等購入計画、C R T・知能検査、成績一覧表及び指導要録、入学及び転編入学選考等就学児関係、出席簿、卒業及び修業台帳、学籍、進路指導関係、研究大会運営、学校要覧作成（総務と連携）、GIGA スクール対応（各部との連携）、職員会議資料管理、連絡ツールを使った保護者との連携

P T A活動（役員会、学校教育部・家庭教育部・社会教育部、後援会、クラブ等）
保護者ボランティア
四附連・全附連、市P連・県P連、3 Aブロック、附属五校園P T A
同窓会（附小関係・大学関係）、愛教研
その他関係諸機関との連絡・調整

教育実習指導計画（事前指導計画、教生配当、組別研究計画、評価計画等）
教生指導（服務、学習指導、生徒指導等）
地域連携実習、観察実習、インターン実習、プレ実習、養護実習、学校保健実習
学部との調整

研究構想（基本構想、年次研究推進計画）、研究大会構想、年次研究推進、研究関係の対外交渉、事前研究会の計画・運営（研究評議委員会等）、研究大会関係文書の作成・発送（企画情報部との連携）、資料編集（研究紀要、大会要項、研究書籍等）、発表資料作成（基調提案プレゼン）、研究大会運営計画
研究の連携（幼・小・中連携教育の推進、D F K、インクルーシブセンターとの連携、愛教研等関係諸機関との連携）
研究情報の収集・発信（企画情報部と連携）、教職員研修（研究推進関係・一般研修）
入学選考（試問内容の検討・作成）
年間指導計画（教務部・生活部と連携）、学校評価（学習に関する意識調査等）
「あゆみ」（教務部・生活部との連携）

情報システム・校務支援システムの整備・運営・管理（電子メール等）
教育機能データベースの整理・運営・管理（I C T等）、文書データベースの整理と管理
学籍等の情報管理（教務部・生活部と連携）、教育活動の記録・保存（画像撮影等）
各種情報の発信（H Pの作成）
研究大会案内状・名簿作成等（研究部との連携）
I C T機器研修、GIGA スクール対応（各部との連携）、連絡ツールを使った保護者との連携

校内生活（生活目標、生活指導、「附属の子のくらし」）
校外生活（通学調査、交通安全指導、防犯指導、校外生活班会、マナーアップ教室）
児童活動（児童会活動、委員会活動、クラブ活動、ファミリー活動、J R C活動）
環境整備（清掃活動、安全点検、校内掲示）
学校保健（保健室経営、健康教育等）、学校給食、児童理解（コミュニケーション・フォーラム、教育相談、S Cとの連携）、学校評価（意識調査、実態調査）
家庭との連携（広報誌「すくすく」の発行）
地域との連携（青少年育成委員会・松山市生徒指導委員会・警察等、他機関との連携、情報の収集とM A Cシステムの活用等による配信）
「あゆみ」等（教務部・研究部と連携）、GIGA スクール対応（各部との連携）

Ⅱ 本校の教育

1 教育目標と教育計画

愛媛大学憲章

自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に送り出すことを最大の使命とする。

附属学校園の教育理念

未来を拓く人材の育成 「知を追い求める力」「たくましく挑戦する力」「ともに生きる力」

校訓 **なかよく すすんで やりぬく**

学校のエデュケーション目標

自己を拓き、ともに生きる児童の育成

願いとする子ども像

- 探究心を持って、自然や社会、文化などとかかわり合い、学びを楽しもうとする子ども
- 目標の実現に向けて、自省しながら学び続けようとする子ども
- 集団の一員としての自覚を持ち、他者と理解し合って生きようとする子ども

高学年	○ 課題意識を持って自然や社会、文化などとかかわり合い、相互に望ましい関係を築いていこうとする子ども ○ 社会に貢献できる自分（夢）の実現に向けて、自分の学びを振り返りながら、誠実に学び続ける子ども ○ 社会や集団の一員としての自覚を持ち、他者と理解し合って生きようとする子ども
中学年	○ 自然や社会、文化などと積極的にとかかわり合い、自分なりの考えを持って行動しようとする子ども ○ 自分の可能性を信じ、よりよい自分を目指して、様々な活動に積極的に取り組む子ども ○ 既存の決まりを守りながら、自他の違いを認め、助け合おうとする子ども
低学年	○ 身近な自然や社会、文化などと体全体でとかかわり合い、楽しく活動する子ども ○ 自分の思いや願いを持って、楽しく自己表現する子ども ○ 決まりや約束を進んで守り、他者の思いや願いも感じながら、仲よくしようとする子ども

具現化の方策

研究主題

大学や附属高等学校との連携

～未来を拓く人材の育成〈幼・小・中・特支共通主題〉～

「自分らしく学ぶ」子どもの育成

教育学部附属幼稚園・中学校・特別支援学校との連携

学習指導の充実

- 「自分らしく学ぶ」子どもの育成に向けた研究の推進
- ICTを活用した授業の構想と実践
- 個に応じた学習指導や支援の充実

生活指導の推進

- 発達や学年の傾向に応じた根拠強い生活指導の推進
- 一人一人の教育的ニーズに合う生活指導・支援の推進
- 家庭や地域と連携した基本的生活習慣や社会性等の育成
- SCとの連携等、組織的な指導・支援体制の整備
- 情報モラル教育の指導・支援体制の整備

安全管理・指導の徹底

- 教育的で安全な人的・物的環境の一層の整備と保全
- 安全管理・指導の一層の推進

連携

- 附属校園及び大学との連携による教育の推進
- 各種の研修への積極的参加
- 関係諸機関の専門性を生かした相互関係の構築
- それぞれの教育力を生かした家庭や地域との連携
- PTAの組織や活動の見直しによる活動内容の均等化と活性化

2 年間授業時数

上段は、年間標準授業時数
() は、35週（1年は34週）換算の週時数

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	道徳	外国語活動	総合	特活	総時数
1年	306 (9)		136 (4)		102 (3)	68 (2)	68 (2)		102 (3)		34 (1)			34 (1)	850 (25)
2年	315 (9)		175 (5)		105 (3)	70 (2)	70 (2)		105 (3)		35 (1)			35 (1)	910 (26)
3年	245 (7)	70 (2)	175 (5)	90 (2.6)		60 (1.7)	60 (1.7)		105 (3)		35 (1)	35 (1)	70 (2)	35 (1)	980 (28)
4年	245 (7)	90 (2.6)	175 (5)	105 (3)		60 (1.7)	60 (1.7)		105 (3)		35 (1)	35 (1)	70 (2)	35 (1)	1,015 (29)
5年	175 (5)	100 (2.9)	175 (5)	105 (3)		50 (1.4)	50 (1.4)	60 (1.7)	90 (2.6)	70 (2)	35 (1)		70 (2)	35 (1)	1,015 (29)
6年	175 (5)	105 (3)	175 (5)	105 (3)		50 (1.4)	50 (1.4)	55 (1.6)	90 (2.6)	70 (2)	35 (1)		70 (2)	35 (1)	1,015 (29)

生活科と特別活動等を統合し、「ぎんなん学習」として運用する。

総合的な学習の時間と特別活動と外国語活動等を統合し、「くすのき学習」として運用する。

3 学級編制

(令和7年5月1日現在)

	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年			第6学年			計
	月	花	星	月	花	星	月	花	星	月	花	星	月	花	星	月	花	星	
男子	16	16	16	16	16	15	16	16	16	15	16	16	15	14	15	16	16	15	281
女子	16	16	16	15	16	16	15	15	16	16	16	15	16	16	15	16	16	16	283
計	32	32	32	31	32	31	31	31	32	31	32	31	31	30	30	32	32	31	564

* 学年中途において欠員が生じた場合は、本校の定める「転編入学児童選考内規」に従い、転・編入学を許可する。
ただし、第5学年3学期から第6学年の間の転・編入学は認めない。

4 日課及び週時程

通常日課 (月・火・金)		月	火	水	木	金	特別日課 (水)	特別日課 (木)
8:15	登 校						8:15	8:15
8:25							8:25	8:25
8:50	朝の時間・移動	朝 会 (月 1 回)				集 会 ファミリー活動	8:50	8:50
	①校時							
9:35							9:30	9:30
9:45							9:40	9:40
	②校時							
10:30							10:20	10:20
10:45							10:35	10:35
	③校時							
11:30							11:15	11:15
11:40							11:25	11:25
	④校時							
12:25	給 食						12:05	12:05
13:10	昼休み						12:50	12:50
13:40	清掃活動						13:15	13:15
13:55				⑤校時				13:30
14:05							13:55	13:40
	⑤校時						14:05	
14:50				⑥校時				14:20
15:00								14:30
	⑥校時						14:45	
15:45	終わりの会			終わりの会			15:00	15:10
				下校完了 15:20 職員会議 15:45				15:25
	⑦校時				委員会 (40 分間) クラブ (45 分間)			15:30
								16:10 または 16:15

- 1 単位時間は45分間。ただし、水・木曜日はブロック制（連続する2単位時間で90分間）による特別日課とする。
水曜日は清掃を行わない。
 - 2 第1学年は水曜日のみ6時間。第2学年は火・水曜日が6時間。第3学年は月曜日のみ5時間。第4～6学年は毎日6時間。ただし、木曜日には、⑦校時にクラブ（第4～6学年、年10回）、委員会（第5・6学年、月1回）が入る。
 - 3 朝の時間は、指定された活動以外は、原則として学級及び学年裁量の時間とする。
 - 4 朝の時間の活動のうち、年間指導計画に位置付いている活動は、1/2時間としてカウントする。
 - 5 4～6年生の最終下校時刻は16:40（ただし12～1月は16:20）
- * 水曜日⑥校時は調整によって、時数が不足しそうな教科等の時間にあてる。
- * 各学年とも指導状況に応じて、保護者に連絡をした上で空いている校時を活用し、標準時数を確保する。

Ⅲ 教育研究

1 研究主題

～ 未来を拓く人材の育成（5 校園共通主題）～

「自分らしく学ぶ」子どもの育成

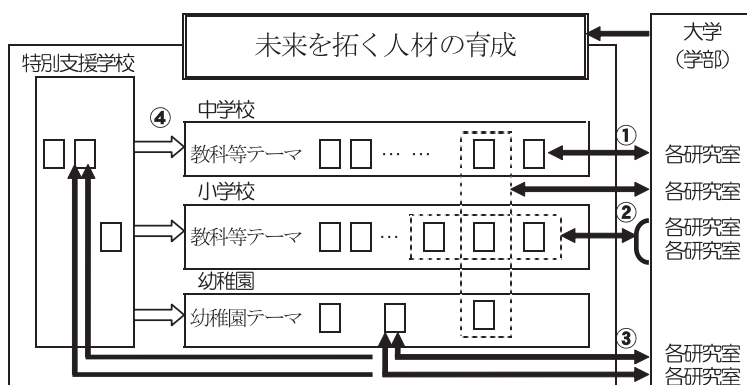
本校では、今期から研究主題を「『自分らしく学ぶ』子どもの育成」と設定した。自分の疑問や課題意識を原動力として自己実現を目指す子どもの姿が表れるような、学び方の指導や学校の在り方などを探究していく。また、学習の個性化を支えるにはどうすればいいか、協働的な学びとどうつなげるか、子どもが自らの学びをつくることのできる環境はどのようなものかなどといった課題を解決していける校内研究体制の在り方も探っていく。

2 研究の目的

各教科等及び各領域の特質を大切にしながら具体的な授業を構想・実践・評価し、同時に教育課程全体を見直ししながら、全教育活動を通じて、「自分らしく学ぶ子どもの育成」の実現を目指した授業づくりや教育課程の運用、教師の在り方等の実践理論を構築する。

3 研究の体制

幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校共通主題



左図の□は、各教科等の実践的研究テーマである。

- ① 実践的研究は、各教科等と大学の各研究室とが共同で進める。
- ② 教科等によっては、教科や学校種を越えて研究グループを設定し、実践的研究を進める。この場合には、大学の複数の研究室が協力に当たる。
- ③ 学び自体が総合的な幼稚園や特別支援学校では、幼児教育や特別支援教育の研究室だけでなく複数の研究室が協力する場合もある。
- ④ 特別支援学校のセンター的機能を生かした研究を進める。

4 研究の計画

年次	年度	研究計画の概要
1	R 7	「自分らしく学ぶ」子どもの具体像を描き、その指導と評価の在り方や授業づくりにおけるカリキュラム・マネジメントについて、実践を基にしながら研究仮説を生成する。
2	R 8	「自分らしく学ぶ子どもの育成」の実現を図る授業づくりや教育課程の運用について仮説検証し、実践理論を確立させるとともに、具体的な方法を明らかにし、一般化・体系化する。また、今期研究の成果と課題を明らかにして、最終年次の研究の方向性を探る。
3	R 9	「自分らしく学ぶ子どもの育成」の実現を図る授業づくりや評価、教育課程の運用について仮説検証し、実践理論を確立させるとともに、今期研究の成果と課題を明らかにして、次期研究の方向性を探る。

5 研究の沿革

愛媛教育研究大会

第1期／民主主義新教育の構想

第26回大会 S 21年度

27～29 22～24

30 25

31 26

新日本建設と教師の自覚

新しい教育精神

カリキュラムの構成

教科外の活動の指導

第2期／生活学習の展開と省察

32 27

33～34 28～29

35 30

36 31

37 32

学力の実態とその対策

(各教科別研究主題設定運用)

学級経営上の諸問題

学力の向上を目指す学習指導

学習指導の問題点とその対策

第3期／基礎学力の充実

38 33

39 34

40 35

41 36

42 37

43～44 38～39

新しい学習指導の実際

新学習指導要領と移行措置の問題

新教育課程の研究

新学習指導要領による指導の実際

能率的効果的学習指導の研究

児童理解に基づく効果的な学習指導研究

第4期／創造的能力の開発

45～49 40～44

人間形成をめざす学習指導の研究

(図書発刊)

第5期／学習指導の効率化

50～52 45～47

教育の現代化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

第6期／全人教育の展開

53～55 48～50

学習の成立における楽しさの追求

56～60 51～55

生きる力としての学力を考える

(図書発刊)

第7期／学習活動の主体化

61～63 56～58

子どもの追求心に培う

(図書発刊)

64～65 59～60

子どもの生活に根ざす教育

(図書発刊)

第8期／〈生活＝学習〉の自律化

66～69 61～H 1

個の自律化をはかる授業Ⅰ

(図書発刊)

70～72 H 2～4

個の自律化をはかる授業Ⅱ

(図書発刊)

73～76 5～8

自己をひらき、ともに生きる子どもの育成

(図書発刊)

(文部省研究開発学校指定)

77～80 9～12

自己をひらき、ともに生きる子どもの育成Ⅱ

(図書発刊)

第9期／〈かかわり合う力〉の育成

81～85 13～17

〈かかわり合う力〉を育てる授業の創造

(図書発刊)

第10期／連携教育の探究

86～89 18～21

〈人間力〉を育てる幼・小・中連携教育の探究

第11期／未来を拓く人材の育成(附属5校園共通教育理念)

90～92 22～24

未来を拓く力の育成(幼・小・中・特支共通主題)

93～95 25～27

新しい「知」を創り出す

96～98 28～30

〈自己効力感〉が高まる学びを探る

99～100 R 1～3

子どもと創る「深い学び」

101～103 4～6

子どもが創る「探究的な学び」をデザインする(図書発刊)

愛媛幼年教育研究大会

第	1 回大会	S	30年度	幼年教育における指導及び方針の検討
	2		31	幼年期における「自然」指導内容はどうあるべきか
	3		32	幼年期における「社会」の指導
	4		33	幼年期における言語指導
	5		34	音楽リズム指導
	6		35	幼稚園における「健康」の指導
	7		36	絵画製作の指導
	(兼)		37	第13回放送教育研究会全国大会／会場校
	8		38	幼児の社会性を伸ばす指導
	(兼)		39	第7回四国幼稚園連合研究大会／会場校
	9		40	幼児指導における評価の研究
	10		41	遊び形態における設定保育のありかた
	11		42	幼児のしつけ
	12		43	幼児が自ら選んで行う活動、グループで行う活動、学級全体で行う活動の指導はどのようにしたらよいか
	13		44	幼児の発達と指導の適時性
	14		45	発達段階に即した幼稚園教育課程
	15～19		46～50	幼・小における指導内容の相関Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
	20～26		51～57	幼年期における楽しい生活
	27～33		58～H 1	ふれあいを求める総合的活動
	34～40	H 2～8		ともに生きる生活世界の在り方を求めて
	41～44	9～12		ともに生きる『学び合う関係づくり』を求めて
	45～47	13～15		ともに生きる心の育ちを求めて
	48～49	16～17		幼年期における豊かな学びの創造

* 平成18年度から現在は、愛媛教育研究大会と統合

本校教育研究刊行物

- ・『創造的能力の評価・診断』明治図書, 1969 (S44年度)
- ・『〈楽しい土曜日〉の構想と実践』明治図書, 1976 (S51年度)
- ・『教育課程』愛媛大学教育学部附属小学校, 1980 (S55年度)
- ・『総合的活動実践事例集』愛媛大学教育学部附属小学校, 1983 (S58年度)
- ・『〈生活科〉をつくる』青葉図書, 1989 (H元年度)
- ・『1990年版教育課程』愛媛大学教育学部附属小学校, 1990 (H2年度)
- ・『今、学校がかわる ―自律する子どもを育てる―』明治図書, 1993 (H5年度)
- ・『1993年版教育課程』愛媛大学教育学部附属小学校, 1993 (H5年度)
- ・『学ぶこと・教えることの統合をめざして』明治図書, 2001 (H12年度)
- ・『授業をつくる ―〈かかわり合う力〉の育ちをめざして―』東洋館出版社, 2006 (H17年度)
- ・『子どもが創る「探究的な学び」をデザインする』東洋館出版社, 2025 (R6年度)

Ⅳ 教育実習

1 教育実習の目的

- 大学の一般教育や専門教育で習得した知識や技能を教育現場の実地に生かし、理論と実践との一体化を推進していく態度を養う。
- 子どもの生活指導、各教科等の学習指導、学級経営、学校経営、教師としての服務等、学校教育全般にわたっての認識を深め、実践的な能力を養う。
- 教職への自覚と教師の使命感から、自己認識を深め、教育者としての人格の形成に努める。

2 教育実習の内容

コース・サブコース	追加で取得希望の免許状				
	幼稚園または小学校 教諭免許状	中学校または高等学校 教諭免許状		特別支援学校 教諭免許状	
初等教育コース 幼年教育サブコース	実習 B（初等）*1、*2 【3 年次、1 週間】	教育実習 事前・事後指導（中等）	実習 B（中等） 【4 年次、1 週間】	特別支援学校教育実習 事前・事後指導	特支（知的） 【4 年次、2 週間】
初等教育コース 小学校サブコース	実習 B（初等）*1、*3 【4 年次、1 週間】	教育実習 事前・事後指導（中等）	実習 B（中等） 【4 年次、1 週間】	特別支援学校教育実習 事前・事後指導	特支（知的） 【4 年次、2 週間】
特別支援教育コース （小学校基礎免）	実習 B（初等）*1、*3 【4 年次、1 週間】	教育実習 事前・事後指導（中等）	実習 B（中等） 【4 年次、1 週間】		
中等教育コース	教育実習 事前・事後指導（初等）	実習 B（初等） 【3 年次、1 週間】	実習 B（中等）*1、*4 【4 年次、1 週間】	特別支援学校教育実習 事前・事後指導	特支（知的） 【4 年次、2 週間】
特別支援教育コース （中学校基礎免）	教育実習 事前・事後指導（初等）	実習 B（初等） 【4 年次、1 週間】	実習 B（中等）*1、*4 【4 年次、1 週間】		

*1：取得する免許状の学校種での教育実習を希望する場合には履修。

*2：附属小学校で実施。

*3：附属幼稚園で実施。

*4：附属高等学校で実施。

(1) 観察実習・プレ教育実習

1 回生では、大学の授業の一環として小学校の授業を観察し、授業の様子を感じ取る。子どもの学習や活動の観察を通じた児童理解を目的としている。

2 回生では、プレ教育実習として、3 回生の組別研究会を観察する。

(2) 教育実習

○ 教育実習オリエンテーション

- ・ 講話（校長・副校長／教育課程・国語科・社会科・算数科・理科・生活科・音楽科・図画工作科・家庭科・体育科・外国語科・特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動／生活指導・学校保健・学校給食／実習部）
- ・ 授業参観、配属学年・学級での担任指導・日程の確認等

○ 観察・参加

始業前・朝の会・帰りの会・学習指導・給食指導・清掃指導・休み時間・放課後などの一日の生活の流れ、学校や学級の決まり、学校・学級環境、学級経営の工夫等、教師の目的・組織的・主体的な運営など、全教育活動について観察していく。特に、子どもの行動、発言、表情からその考え方、感じ方、人間関係を理解し、それに対応している教師の働き掛けや場づくりの意味を観察する。

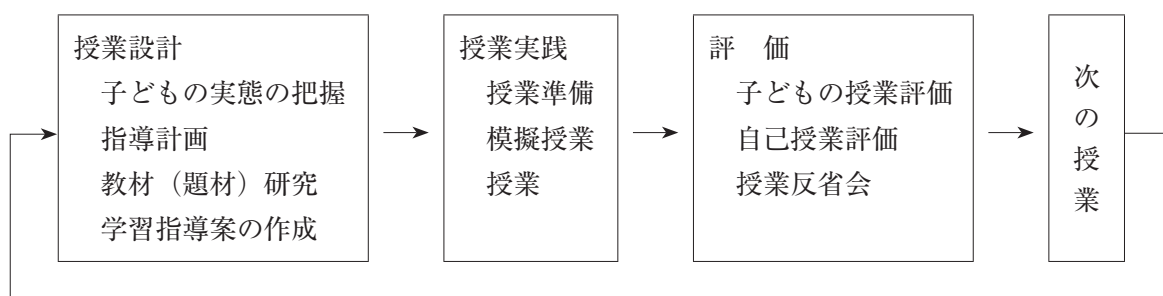
さらに、教材研究、指導計画、学習指導案作成、授業、教具づくり、評価に至るサイクルの中で、各段階の仕事内容に具体的に参加する。そして、教師の意図、子どもの発言、行動の意味をよりの確に捉え、授業を観る目を養う。組別研究会の共同研究授業、また、クラブ活動や委員会

活動、学校行事等に指導者として主体的に参加し協力することを通して、学校教育や子どもへの理解をより深める。

○ 参画

国語科・算数科・社会科・理科・生活科・音楽科・図画工作科・家庭科・体育科・外国語科・特別の教科道徳の教科指導と特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動などすべての領域の指導に当たる。学年や学級の実態に応じた指導が必要であり、その特色を知ることがよさを生かすことになる。そして、子ども一人一人の興味・関心、意欲、考え方、表現の傾向、様々な能力、理解の仕方など、一人一人を理解することによって実習はより有意義なものとなる。

学習指導は、次のような過程で行われる。



実習行事には、次のようなものがある。

- ・ 実習授業
- ・ 実習生が、輪番で司会を務める学級の反省会（実習生の授業の協議を含む）
- ・ 組別研究会（同学年組別研究会を行う）
- ・ 附属幼稚園の参観
- ・ 県教育委員会義務教育課の特別講話
- ・ 実習録への日々の記録と所見等の蓄積及び提出
- ・ 全日実習（始業前から放課後まで、原則としてその日一日の全教育活動を実習生で行う）

○ 教育実習の評価

実習は、以下のような観点で総合的に評価される。

- Ⅰ 服務と勤務態度……時間を守ること、言葉遣いや挨拶、子どもへの接し方等
- Ⅱ 教育活動の観察と理解…授業観察や講話への参加態度、実習録への記録の充実度
- Ⅲ 研 究……授業研究への姿勢、反省会や研究協議での発言内容
- Ⅳ 学習指導の計画と実際…教材研究、指導案の内容、事前準備、子どもの意識を大切にした授業展開、明確な発問や指示、評価
- Ⅴ 学級経営・生活指導……児童理解、よりよい生活を目指した指導、健康や安全の管理

※ 自己評価を基にした、担任との個人面接を通して、今何が自分に足りないのかを考える。

(3) 地域連携実習

大学近隣の学校・教育機関の協力の下、学生の主体的な参加による教育体験活動を通して、教育実践に必要な知識や技能を高めるものである。

現在、「運動会」「交流活動」「校外活動（生活科・社会科）」等で活動を進めている。さらに、授業のアシスタントなどへも活動を広げている。



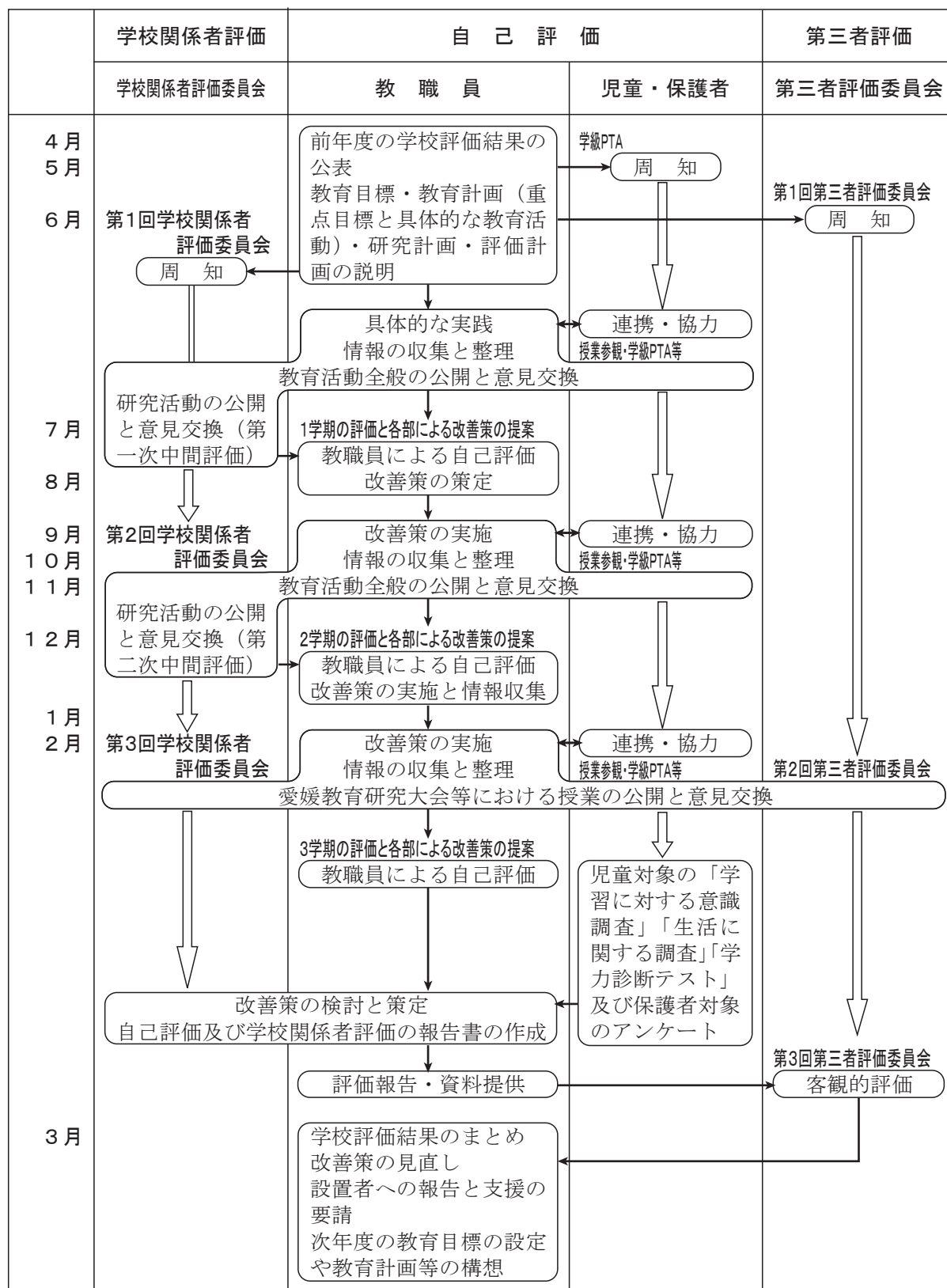
V 事業計画

月	学校行事等関係	生活（保健体育）関係	生活（生活指導・児童活動）関係
4	1 4 校園合同新入式 10 入学式 11 入学式 11 新入式・始業式 23 修学旅行（～25） 23 遠足（1～3年） 30 希望懇談会（5/1、5/2） 30 避難訓練（地震）	14 内科検診（6年） 15 身体計測・視力検査（～28） 28 内科検診（2年） 30 耳鼻咽喉科検診（抽出児）	15 校外生活班発足 17 マナーアップ教室 18 委員会発足
5	24 運動会	7 眼科検診（抽出児） 8 内科検診（1・3・4・5年）（～29） 9 聴力検査（1・2・3・5年）（～13） 15 尿検査 20 心電図検査（1年）	9 1年生を迎える会 15 クラブ発足 15 JRC登録式 ・生活部便り「すくすく」発行
6	10 プール開き ・学校評議員会、学校関係者評価委員会 ・第三者評価委員会 25 避難訓練（不審者） ・知能検査（2・5年） 29 5年自然の学校（～7/1）	2 職員健康診断（・3） 12 歯科検診	10 プール開き集会
7	18 第1学期終業式 夏季休業（～8/31）		17 校外生活班会 ・生活部便り「すくすく」発行
8			・校外安全指導
9	1 始業式	3 身体計測・視力検査（～10） 19 臨時内科検診（4年）	1 校外生活班会
10	8 4年レインボーキャンプ（～9） 16 創立記念日（142周年） 22 4校園合同避難訓練（地震）	15 小児生活習慣病予防健診 16 臨時内科検診（抽出児） 30 脊柱側弯症検査（5年）	19 なかよし集会（人権集会） ・生活部便り「すくすく」発行
11	・入学希望者のための事前説明会、入学選考公示 14 校内持久走大会 ・学校評議員会、学校関係者評価委員会	・第1回学校保健委員会	
12	15 個別懇談（16・17・18） 23 第2学期終業式 24 冬季休業日（～1/7）		19 校外生活班会
1	8 第3学期始業式 ・入学選考 ・学力診断テスト	13 身体計測（～16）	
2	6 学校評議員会、学校関係者評価委員会 6 第三者評価委員会 6 第104回愛媛教育研究大会 ・避難訓練（火災） 12 新入学児童・保護者招集		17 校内なわとび集会（・18）
3	3 お別れ遠足 18 卒業式 19 修業式 22 春季休業（～4/10） 27 離任式・4校園合同離任式		3 ファミリーお別れ遠足 10 6年生を送る会 ・生活部便り「すくすく」発行
備考	○水曜日／職員会議 （月1回職員研修） ○月1回（月曜日）／朝会 ○月1回／運営委員会	○校内安全の日（毎月20日） ○コミュニケーションフォーラム （月1回） ○登校指導（月3回） ○下校指導（毎週水曜） ○児童集会、ファミリー活動 （金曜日）	○委員会活動（月1回）（15：30～16：10） ○クラブ活動（木曜日） 5～12月（15：30～16：15） ○代表委員会（昼休み）

研究推進・企画情報関係	教育実習関係	渉外関係	その他関連行事等	月
- 研究組織発足 - 文書データベース作成提案 - HP作成・更新提案 - 児童名簿作成	- 事前指導講師確認、報告 - 実習の手引作成計画	16 P T A参観日 22 P T A執行部会	9 附属中学校入学式 11 附属特別支援学校入学式 14 附属幼稚園入園式	4
- 研究グループ発足 - 研究大会構想案策定 - 研究推進計画作成 - I C T（タブレット端末）の活用について（情報研修）	- 教育実習計画作成 - 教育実習生学級配当	13 P T A執行部会		5
研究紀要執筆開始	9 観察実習（・16） 19 第1回教育実習事前指導	24 P T A参観日 ・ 3 Aブロック交流会		6
- 研究大会第1次案内状発送 - I C Tの活用・情報モラル教育について（情報研修） - 来年度年間指導計画作成開始	公立学校実習打ち合わせ会	8 P T A執行部会 ・ P T A新聞発行		7
- 人権・同和教育研修 - 特別支援教育研修	21 第2回教育実習事前指導（・22）			8
	2 教育実習A開始 16 教育実習（2週間コース）終了 22 プレ教育実習 26 教育実習（4週間コース）終了	9 P T A執行部会		9
- 来年度年間指導計画脱稿 - 授業研究開始	2 教育実習B開始 9 教育実習B終了	19 P T A参観日		10
- 研究評議委員会 - 研究大会第2次案内状発送 - 研究大会運営計画作成	教育実習評価（資料作成、審議）	学校保健委員会		11
- 研究大会申し込み受付 - 紀要原稿脱稿		2 P T A執行部会		12
- 研究大会資料発送 - 研究大会指導案脱稿		20 P T A執行部会		1
6 第104回愛媛教育研究大会 - 研究大会反省 - 研究大会礼状発送	次年度の教育実習に関する打ち合わせ会	21 P T A参観日		2
1年次研究総括 - 年間指導計画修正 2年期研究構想の提案 - 文書データベース作成（情報研修）		4 P T A執行部会 ・ P T A誌発行	10 附属特別支援学級高等部卒業式 14 附属幼稚園卒園式 17 附属中学校卒業式 19 附属特別支援学校（小中）卒業式	3
○適宜、研究部会、研究グループ別 実行委員会、学年部会開催 ○適宜、HP更新				備考

Ⅵ 学校評価計画

学校教育法第42・43条、学校教育法施行規則第66・67・68条、並びに「学校評価ガイドライン」に基づいて、次のように学校評価を行う。



- * 教育実習に関する評価は、大学との協議による評価計画に基づいて行う。
- * 研究推進について、研究評議委員会を開催し（年3回）評価を行う。

VII 学校沿革概史

- 明治16(1883)年10月 愛媛県師範学校附属小学校開校式を二番町にて挙行する(18日)
- ㄥ 23(1890)年9月 二番町の校舎から木屋町の師範学校内の校舎に移転する
- ㄥ 34(1901)年4月 校旗布告式を挙行する
- ㄥ 36(1903)年10月 東宮殿下行啓される(15日)
- ㄥ 43(1910)年4月 女子師範学校が独立し、三津浜の校舎へ移る
- ㄥ 44(1911)年4月 女子師範学校附属小学校を創設する
- ㄥ 45(1912)年4月 幼稚園を併設する
- 大正元(1912)年9月 師範学校東側に附属小学校を新築・落成する
- ㄥ 9(1920)年4月 余土尋常高等小学校を代用附属小学校とする
(余土代用附属小学校を廃する／昭和10(1935)年4月)
- ㄥ 10(1921)年11月 **第1回愛媛教育研究大会を開催する**
- ㄥ 11(1922)年11月 摂政宮皇太子裕仁親王殿下行啓される(24日)
- ㄥ 12(1923)年4月 ドルトン実験室案(ドルトン・プラン)を採用する
- ㄥ 13(1924)年4月 ドルトン実験室案創始者H. パーカスト女史来校する
- ㄥ 14(1925)年4月 ドルトン実験室案を廃する
- 昭和4(1929)年4月 温泉郡三津浜第2尋常小学校を代用附属小学校とする
(三津浜第2尋常代用附属小学校を廃する／昭和7(1932)年3月)
- ㄥ 14(1939)年10月 N H K全国音楽コンクールで全国優秀校となる(①)
- ㄥ 18(1943)年4月 愛媛師範学校男子部附属小学校及び同校女子部附属小学校と校名変更する
- ㄥ 20(1945)年7月 26日夜半、米機の来襲を受け、男子部本校及び附属小学校を全焼する
- ㄥ 21(1946)年2月 第1回教育実習生を受け入れ、学級配置を行う
- ㄥ 22(1947)年1月 学校給食を開始する
- ㄥ 23(1948)年5月 男子部附属小学校を堀之内連隊兵舎へ移転する
- ㄥ 24(1949)年5月 愛媛大学愛媛師範学校附属小学校と校名改称され、両附属小学校は統合し、それぞれ松山教場・三津教場となる
- ㄥ 25(1950)年11月 附属小学校三津教場は、三津浜幼稚園の一部を借用し、仮校舎として移転する
附属小学校松山教場は、城北の大学構内の教育学部新校舎へ移転する
- ㄥ 26(1951)年4月 愛媛大学教育学部附属小学校と校名改称する
附属幼稚園と三津教場の5・6年児童を松山教場へ移す
- ㄥ 27(1952)年4月 **附属三津教場を廃し、松山教場に合併する**
- ㄥ 12月 樋又の新校舎が竣工し、全校移転する
- ㄥ 28(1953)年1月 新校舎落成祝賀会を挙行する
- ㄥ 30(1955)年10月 **第1回幼児教育研究大会(愛媛幼年教育研究大会)を開催する**
- ㄥ 31(1956)年2月 校歌を制定する
- ㄥ 35(1960)年10月 校旗を制定する
- ㄥ 36(1961)年10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 37(1962)年10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 38(1963)年11月 N H K全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(②)
- 創立80周年記念式典及び祝賀会を挙行する**
- ㄥ 42(1967)年4月 特殊学級(養護学級)を新設する
- 10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 44(1969)年4月 「創造的能力の評価・診断」を発刊する
- 5月 **現在校地(持田町)へ移転完了、落成式を挙行する**
- ㄥ 45(1970)年3月 養護学級校舎が落成する(16日)
- ㄥ 4月 幼稚園が独立する
- ㄥ 46(1971)年5月 ズッコケランドが完成する
- 6月 プールが竣工する(11日)
- ㄥ 47(1972)年3月 校歌碑を建立する
- 4月 養護学級が独立する
- 9月 総合的活動〈楽しい土曜日〉を運用開始する
- 10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 48(1973)年3年 〈三つの誓い〉の碑が完成する
- 11月 **創立90周年記念式典を挙行する**
- ㄥ 49(1974)年3月 国旗掲揚台が完成する
- 10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(③)

- 昭和50(1975)年10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 51(1976)年 5 月 『《楽しい土曜日》の構想と実践』(明治図書)を発刊する
- ㄥ 53(1978)年10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(④)
- ㄥ 54(1979)年 5 月 〈日中友好団の船〉訪日団が来校する
- 10月 日本赤十字より銀色有功章を受賞する
- N H K 全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(⑤)
- ㄥ 55(1980)年 3 月 第10回世界児童画展において優秀校となる
- ㄥ 56(1981)年 1 月 第40回全国教育美術展において優秀校となる
- 3 月 南・北各校舎の外壁塗装工事を行う
- 6 月 合科指導教室及び教育実習講義室が南校舎東側に増築される
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- ㄥ 57(1982)年 2 月 第41回全国教育美術展において奨励賞を受賞する
- 3 月 中校舎の外壁塗装工事を行う
- 第18回学研全国児童才能開発コンテストで作文部門奨励賞を受賞する
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(⑥)
- 日本赤十字社より〈青少年赤十字加盟継続20年〉の表彰を受ける
- 12月 コーラス部、昭和57年度芸術祭優秀賞を受賞する(「どろんこのうた」の初演)
- ㄥ 58(1983)年 2 月 第42回全国教育美術展において教育美術展振興会長賞を受賞する
- 3 月 校舎全廊下の補修工事を行う
- 『総合的活動実践事例集』を発刊する
- 11月 自然観察園、飼育小屋及び造形広場が完成し、校旗を新調する
- 創立100周年記念式典及び祝賀会を挙げる(9日・10日)**
- 記念像〈三つの泉〉が完成し、除幕式を行う(9日)
- ㄥ 59(1984)年 2 月 第43回全国教育美術展において委員会賞を受賞する
- 3 月 『子どものための附小の百年』を発刊する
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国最優秀校となる(⑦)
- ㄥ 60(1985)年 3 月 低・中学年教室、特別教室、事務室、応接室、教官室等の床面張替え及び黒板・
掲示板の新調・補修工事を行う
- 第44回全国教育美術展において教育美術振興会長賞を受賞する(27日)
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国優秀校となる
- 第30回ソニー教育振興資金優秀校となる(16日)
- ㄥ 61(1986)年 2 月 第45回全国教育美術展において奨励賞を受賞する
- 3 月 愛媛大学教育学部附属小学校『百年史』を刊行する
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国金賞(最優秀校)となる(⑧)
- ㄥ 62(1987)年10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国金賞となる(⑨)
- ㄥ 63(1988)年 3 月 外装改修工事を行う
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国銀賞となる
- 平成元(1989)年 4 月 タイ国内親王シリパ・チュッタボン殿下、親善学校訪問される
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国金賞となる(⑩)
- 11月 『生活科をつくる』(青葉図書)を発刊する
- ㄥ 2(1990)年 5 月 『1990年版教育課程』を発刊する
- ㄥ 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国金賞となる(⑪)
- ㄥ 3(1991)年 1 月 コーラス部愛媛新聞社賞を受賞する
- 4 月 通信簿「あゆみ」による教育評価が始まる
- 9 月 国際親善交流集会が始まる
- 11月 愛媛県師範学校附属小学校跡記念碑除幕式(16日)
- ㄥ 5(1993)年 3 月 「1993年版教育課程」を発刊する
- 『今、学校が変わる——自律する子どもを育てる』(明治図書)を発刊する
- 9 月 体育館の緞帳・カーテンを新調する。運動場に手洗い場をつくる
- 10月 N H K 全国学校音楽コンクールで全国金賞となる(⑫)
- 11月 **創立110周年記念式典を挙げる(7日)**
- ㄥ 6(1994)年 4 月 文部省の研究開発学校の指定を受ける(1日)(H6～8)
- 7 月 異常渇水のため11月まで節水メニューによる給食が行われる
- ㄥ 7(1995)年 3 月 運動場東側に時計台を設置する
- 教育用パーソナルコンピュータシステムを導入する
- 4 月 文部省の研究開発学校の指定を受ける(2年次)
- 「活動单元」による授業を実施する
- 通信簿、新「あゆみ」による教育評価が始まる

- 平成8(1996)年3月 管理棟(北校舎)の外壁塗装工事を行う
4月 文部省研究開発学校指定(最終年次)を受ける
教科等による授業から学習領域(8領域)による授業を試みる
11月 中校舎(特別教室棟)外壁塗装工事を行う
ㄥ 9(1997)年2月 文部省研究開発最終年次研究発表会を兼ね、第76回愛媛教育研究大会を行う
11月 フルブライトメモリアル基金教員(米国)受入
12月 焼却炉使用禁止となる
体育館・渡り廊下・南校舎外壁の塗装を行う
ㄥ 10(1998)年4月 4校舎事務部の再編・統合が行われる
各資料室等ダイヤル・インとなる
6月 各資料室等にパソコン(インターネット)が設置される
10月 N H K全国学校音楽コンクールで、全国銀賞となる
ㄥ 11(1999)年3月 給食室改装
4月 L A Nに接続した児童用のコンピュータが11台設置される
6月 太陽光発電設備が設置される
7月 学校便り「くすのき」が創刊される
第1回附属小夏の研究集会(総合的な学習について語り合う会)を開催する
10月 N H K全国音楽コンクールで、全国銅賞となる
ㄥ 12(2000)年4月 教室にL A Nに接続したコンピュータが18台設置される
ㄥ 13(2001)年2月 『学ぶこと・教えることの統合をめざして』(明治図書)を発刊する
3月 視聴覚室(コンピュータ室)にL A Nに接続したコンピュータが11台設置される
4月 芸予地震(3月)で校舎の窓が多数割れ、修復される
10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国銅賞となる
ㄥ 15(2003)年3月 プール改修(浄化槽交換、塗装)を行う
8月 総合遊具「くるりんパラダイス」等を設置する
ㄥ 11月 **創立120周年記念行事(式典、講演会、音楽会)を挙げる(8日)**
ㄥ 16(2004)年1月 正門および塀の柵を改装する
3月 校舎内の廊下を張りかえる
4月 愛媛大学が、国立大学法人としてスタートする
ㄥ 17(2005)年3月 トイレ(北校舎・南校舎)の改修工事を行う
ㄥ 18(2006)年2月 『授業をつくる ―くかわり合う力―の育ちをめざして―』(東洋館出版社)を発刊する
8月 2階渡り廊下の屋根を設置する
ㄥ 19(2007)年3月 教職員用更衣室・シャワー室の設置、用務員室・印刷室の改修、体育館トイレの改修、管理教棟・図書館・音楽室・理科室・家庭科室等の床の張り替えを行う
8月 校舎耐震強化等の工事を行う(～2008年3月)
・中校舎(耐震補強、窓枠サッシ、塗装等)・北校舎(耐震補強、窓枠サッシ、塗装、廊下設置等)
・体育館(屋根・天井の補修、床の塗装等)・中庭(芝の張り替え、煉瓦敷き通路)
ㄥ 20(2008)年4月 エネルギー教育実践校(～H22年度)となる
英語A L Tの導入
9月 スクールカウンセラーの設置
10月 N H K全国学校音楽コンクールで全国銅賞となる
ㄥ 21(2009)年2月 ソニー子ども科学教育プログラムにおいて優秀プロジェクト校となる
4月 北校舎階段、中校舎階段の張り替えを行う
8月 2009年度 経済産業省資源エネルギー庁補助金交付決定
省エネルギー計測監視等推進事業開始(H21年度～)
10月 エアコンの設置および暖房システムの撤去(北校舎：大学による設置／中・南校舎：後援会による設置)
地上デジタル放送対応テレビ設置
各教室に60インチプラズマディスプレイの設置(後援会による)
ㄥ 22(2010)年1月 フィリピン大学附属小学校と、インターネットSkypeを使った国際交流授業を実施する
2月 ソニー子ども科学教育プログラムにおいて努力校となる
3月 地上デジタル放送対応A V情報教育システム設置(各教室におけるインターネットSkypeの設置)
各教室の照明をエコ対象器具に取り替え
家庭科室被服・調理台兼用実習机8台、ガス、水道、電気設備の設置
道路舗装工事・煉瓦敷き通路(中校舎南側・体育館南側・南校舎南側通路)

平成22(2010)年 3月	水道工事(受水槽・ポンプ室の新設、北校舎への配管)
5月	連絡入学制度を施行する
8月	松山市と共同で総合防災訓練を実施する
	2・3階廊下の手摺りを改修する
	3階渡り廊下の屋根を設置する
	図書室の書架を改修、書籍管理をバーコード化する
	理科室の水道工事を行う
10月	NHK全国学校音楽コンクールで全国銅賞となる
11月	エネルギー教育賞を受賞する
ㄥ 23(2011)年 1月	ソニー子ども科学教育プログラムにおいて優秀校となる
	フィリピン大学附属小学校との国際交流授業を実施する
10月	NHK全国学校音楽コンクール連続50回以上出場に対して奨励賞を受賞する
	舞台芸術体験ワークショップ(鎌倉能舞台)を開催する
11月	南校舎前通路煉瓦敷きを改修する
12月	合科教室の照明を改修する
	児童用靴箱・体育館靴箱を取り替える
ㄥ 24(2012)年 1月	ソニー子ども科学教育プログラムにおいて最優秀校となる
2月	実習講義室の照明を改修する
3月	ルイジアナ大学モンロー校より学校訪問
	西側通路舗装工事を行う
	プールを改修する(トイレ・更衣室、観覧席・プールサイド、外部)
4月	文部科学省の認可により入学児童の定員を男子48名、女子48名とする
10月	平成24年度子ども科学教育研究全国大会を行う
11月	児童用ipadを導入する(後援会による)
ㄥ 25(2013)年 3月	アンサンブルコンテスト全国大会に出場する
7月	体育館のグランドピアノ購入
10月	児童会主催創立130周年記念行事(130kmリレー、P T Aバザー、1,000人大合唱)を実施する
11月	創立130周年記念行事(式典、講演会、音楽会)を挙げる
ㄥ 26(2014)年 2月	体育館改修工事を行う
3月	遊具「ドリームパラダイス」を設置する
ㄥ 27(2015)年 3月	給食室改修工事を行う
4月	体育倉庫を取り替える
8月	南校舎窓枠改修工事を行う
ㄥ 28(2016)年 11月	西倉庫を撤去する
ㄥ 29(2017)年 1月	ソニー子ども科学教育プログラムにおいて優秀校となる
3月	青い目の人形贈呈式を行う
10月	「ドリームハウス ころりん」の落成を記念し、お披露目会を行う
ㄥ 30(2018)年 8月	観察池改修工事・ブロック塀改修工事
10月	松山市と共同で総合防災訓練を実施する
	大型提示装置、指導者用コンピュータを導入する(学長特別強化経費による)
令和元(2019)年 6月	学習用タブレット端末を導入する(学長特別強化経費による)
ㄥ 2(2020)年 3月	基幹・環境整備(排水設備等改修)工事を行う
12月	管理棟(北校舎)改修工事を行う
ㄥ 3(2021)年 1月	ソニー子ども科学教育プログラムにおいて優秀校となる
3月	中校舎改修工事を行う
4月	南校舎改修工事を行う
	1人1台端末を導入する(GIGAスクール構想)
ㄥ 4(2022)年 2月	第100回愛媛教育研究大会を開催する
11月	第35回愛媛県小学校陸上運動記録会男子400mリレーで1位となる
	第75回全日本合唱コンクール全国大会小学校部門において銀賞を受賞する
ㄥ 5(2023)年 2月	第101回愛媛教育研究大会を開催する
11月	創立140周年記念行事(式典、講演会、音楽会)を挙げる
ㄥ 6(2024)年 2月	第102回愛媛教育研究大会を開催する
ㄥ 7(2025)年 2月	第103回愛媛教育研究大会を開催する
	『子どもが創る「探究的な学び」をデザインする』(東洋館出版社)を発刊する

VIII 歷代管理職等

[illegible]

Ⅸ P T A ・ 後援会 ・ 同窓会

1 P T A 役員

役名	氏 名	役名	氏 名	役名	氏 名	役名	氏 名
会 長	川崎 慎一	常任理事	吉村 弥生	理 事	星加真梨絵	顧 問	喜井健太郎
副会長	瓜守 彰吾		白石 理沙		西田 文子		辰巳 由美
	上田 基		山本 慶子		瀧幸 美佳		池野 修
	津幡 始伸		樫本 望		松岡 直子	部担当 教 諭	小迫 朝子
	三角 幸太	幹 事	渡部 千春		坂和由紀子		砂野 美和
	平田 真美	監 事	中西 秀伸		舟橋 ゆい		玉井 淳博
	大地 沙織		吉田 薫		石原 由依	事 務	安岡 律
	大久保美香子				富田 恵子		

2 後援会役員

役名	氏 名	役名	氏 名	役名	氏 名	役名	氏 名
会 長	坂本 智紀	理 事	土居 聡朋	顧 問	藤岡 聖也	幹 事	渡部 千春
副会長	久津和秀之		泉川 大輔		宇野 健一	監 事	田中 基道
	辰巳 由美		竹内智恵子		安岡 憲幸		石田 弘子
	喜井健太郎		福田 葉子		池野 修	事 務	武智 弘子
	上村 太朗						
	大久保美香子						

3 同窓会役員

役名	氏 名	役名	氏 名	役名	氏 名
会 長	関谷 勝嗣	常任理事	橘 直樹	常任理事	宇野 健一
副会長	岡田 浩治		阪本 佳子		和氣 成暢
	大亀 恵子		笠置 康		藤岡 聖也

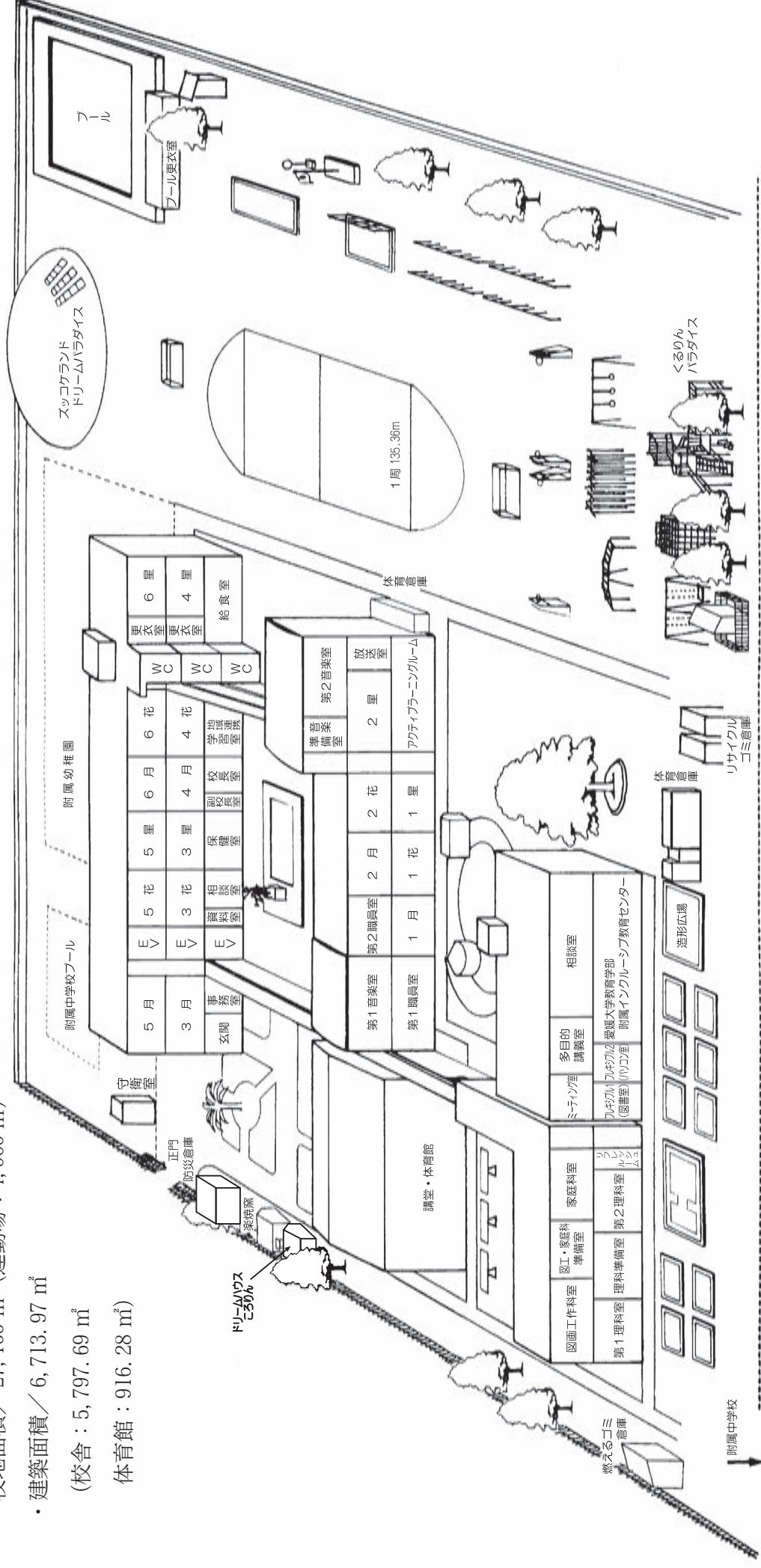
校舎配置図

・校地面積／ 27,166 m² (運動場：4,000 m²)

・建築面積／ 6,713.97 m²

(校舎：5,797.69 m²

体育館：916.28 m²)





**Ehime
University
Primary School
Faculty of Education**



愛媛大学教育学部附属小学校
〒790-0855

愛媛県松山市持田町1丁目5番22号
TEL (089) 913-7861 FAX (089) 913-7862

ホームページ <https://fusyo.edc.ehime-u.ac.jp/>